

JATOP用語集

No.	用語	解説	関連WG
1	記号 △TAN	日本のFAME混合軽油の強制規格項目の一つ。酸化安定性試験後の酸価増加量で、酸化安定性試験後の酸価から酸化安定性試験前の酸価を減じた値。試験法自体をさすこともある(例:△TAN試験)	ディーゼル車バイオ燃料
2	△酸価	△TANと同じ。	ディーゼル車バイオ燃料
3	数字 10・15モード (じゅう・じゅうご モード)	都市内走行の平均的走行パターンをもとに、アイドリング、加速、減速、定速走行などを組み合わせた日本の排出ガス試験及び燃費試験モードであり暖機状態での試験法。10モードと15モードを組み合わせて作られたことからこの名称となっている。昭和53年規制以降、各カテゴリーの試験で順次採用された。	ガソリン車バイオ燃料
4	11モード	11のモードから成る日本の排出ガス試験モードでありコールドスタートの試験法。昭和50年規制から採用された。	ガソリン車バイオ燃料
5	A AMS	Aerosol Mass Spectrometerの略。エアロゾルの粒径別成分分布の分析装置。レーザーを用いてTOF(Time of Flight 飛行時間)により空気力学的直径を計測し、その後急速加熱により気化する揮発性物質を電子衝撃イオン化四重極質量分析装置により分析する。	大気企画
6	ASTM	American Society for Testing and Materialsの略(米国材料試験協会)。世界最大・民間・非営利の国際標準化・規格設定機関。工業規格のASTM規格を設定・発行している。	ディーゼル車バイオ燃料
7	B B5	FAME5%混合軽油。	ディーゼル車バイオ燃料
8	BEIS2	BEIS:Biogenic Emissions Inventory System の略。米国EPAの植物排出量推計モデルであり、BEIS2では植物の面積から排出量の推計を行う。	大気企画
9	BG	backgroundの略。沿道の解析では道路から離れた後背地を意味する。	大気企画
10	BHT	Butylated HydroxyTolueneの略(ジブチルヒドロキシトルエン(dibutylhydroxytoluene)とも言う)。代表的なフェノール系の酸化防止剤	ディーゼル車バイオ燃料
11	BPT	Balance Point Temperatureの略。	ディーゼル車バイオ燃料
12	BVOC	Biogenic Volatile Organic Compoundの略。植物が放出する非メタン系揮発性炭化水素、主成分はイソプレンとモノテルペン。	大気企画
13	C CFPP	目詰まり点。軽油の使用可能温度の目安。	ディーゼル車バイオ燃料
14	CFRエンジン	CFR(Co-ordinating Fuel and Equipment Research Committee)が開発した圧縮比可変の単気筒エンジン。オクタン価やセタン価の測定に使われる。	ディーゼル車バイオ燃料
15	CI	Cetan Indexの略(セタン指数)。着火性指標のひとつ。密度と蒸留性状からの計算により算出。	ディーゼル車バイオ燃料
16	CMAQ	Community Multiscale Air Quality Modeling Systemの略。米国環境保護庁(EPA)のMODELS-3のモデル本体部分にあたる。	全体 大気研究
17	CN	Cetan Numberの略(セタン価)。着火性指標のひとつ。CFRエンジンにより測定。	ディーゼル車バイオ燃料
18	Coldスタート	エンジンを冷めた状態から始動させること。	ガソリン車バイオ燃料
19	COP	Conference of the Partiesの略(締約国会議)。	全体
20	CP	曇り点。低温でWAXが析出して白くなりだす温度。	ディーゼル車バイオ燃料
21	CVT	Continuously Variable Transmissionの略(無段変速機または(変速比)連続可変トランスミッション)。歯車以外の機構を用い変速比を連続的に変化させる動力伝達機構。	ガソリン車バイオ燃料
22	D DBL	Diurnal Breathing Lossの略。試験室内にて、外気温度を模した条件下で24時間駐車した時に車両から発生する燃料蒸発ガス。	ガソリン車バイオ燃料
23	DCN	Derived Cetane Numberの略。着火性指標のひとつ。IQT装置(定容燃焼容器)により測定。	ディーゼル車バイオ燃料
24	DI ダイレクト噴射	Direct Injectionの略。元々はディーゼルエンジンにおいて燃焼室への直接燃料噴射を特徴とする燃焼方式。IDI(Indirect Injection)すなわち間接噴射式と対比される。DIはIDIと比較すると熱効率が高いことにより、これまでは特に燃費性能が重視される大型エンジンに主に採用されてきたが、近年では小型エンジンもIDIからDIへとシフトしつつある。近年はガソリンエンジンでも、燃焼室内へ直接燃料を噴射するDI方式が存在する。	ディーゼル車バイオ燃料 ガソリン車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料
25	DOC	Diesel Oxidation Catalystの略(ディーゼルエンジン用酸化触媒)。	ディーゼル車バイオ燃料
26	DPF	Diesel Particulate Filterの略。ディーゼルエンジン排ガス中のPM捕集装置。排気管系内に挿入されてPMを捕集する部品の総称。構造は酸化触媒担体に使われるセラミックハニカムモリスの両端を交互に目封じたものが多い。実用化に向け、PM堆積に伴う排圧上昇への対策(再生方法)と機械強度等の十分な耐久性(信頼性)が要求されている。	全体 ディーゼル車バイオ燃料 大気研究
27	E E0	エタノールが混合されていないガソリン(通常のガソリン)。	ガソリン車バイオ燃料
28	E10	エタノール10%混合ガソリン	ガソリン車バイオ燃料
29	E15	エタノール15%混合ガソリン	ガソリン車バイオ燃料
30	E3	エタノール3%混合ガソリン	ガソリン車バイオ燃料

No.	用語	解説	関連WG	
31	EC	Elemental Carbonの略(元素状炭素)。炭素成分は、無機炭素と有機炭素に大きく分けられ、元素状炭素は炭化水素が高温で不完全燃焼する際などに生成される無機炭素。主にボイラーやエンジンなどでの化石燃料の燃焼によって排出される。	大気企画	
32	EGR	Exhaust Gas Recirculationの略。	ディーゼル車バイオ燃料 大気研究	
33	EI	Emission Inventoryの略。大気環境を評価する際には、排出量推計データを意味する。	大気企画	
34	EP	蒸留終点	ガソリン車バイオ燃料	
35	ETBE	Ethyl Tertiary Butyl Ether の略。エタノールとイソブチレンの反応により生成される含酸素燃料。バイオエタノールを原料とした場合は、バイオETBEとも称される。	ガソリン車バイオ燃料	
36	F	FAME	Fatty Acid Methyl Estersの略。菜種油、大豆油、パーム油等の油脂類をメチルエステル化したもの。	ディーゼル車バイオ燃料
37	FKM	フッ素ゴム 自動車の燃料系統に用いられることがあるゴム。	ディーゼル車バイオ燃料	
38	FTD	Fischer-Tropsch Dieselの略(FT合成軽油)。	ディーゼル車バイオ燃料	
39	G	G-BEAMS	Georeference-Based Emission Activity Modeling System(Nansai et al., 2004) の略で排出量推計手法の一つ。JATOPではG-BEAMSの手法を適用し、ソフトウェアを開発。自動車以外の発生源の推計に使用。	大気企画
40	GHG 温室効果ガス	Greenhouse Gasの略(温室効果ガス)。大気圏にあって、地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより温室効果をもたらす気体の総称	全体	
41	GVW	GROSS VEHICLE WEIGHTの略(車両総重量)。自動車などにおいて最大定員が乗車し、最大積載量の荷物を積んだ状態で測定した自動車全体の総重量をいう。	大気企画	
42	H	HBD	Hydrogenated Bio Dieselの略(水素化バイオ軽油)。	ディーゼル車バイオ燃料
43	HE車	ハイエミッター車。JATOPの排出量推計では故障車を想定した通常走行では見られない高排出量車をハイエミッター車と扱っている。	大気企画	
44	H-NBR	水素添加ニトリルゴム。自動車の燃料系統に用いられることがあるゴム。	ディーゼル車バイオ燃料	
45	HSL	Hot Soak Lossの略。モード走行後の車両を試験室内で1時間駐車した時に車両から発生する燃料蒸発ガス。	ガソリン車バイオ燃料	
46	I	IBP	Initial boiling pointの略(蒸留初留点)。	ガソリン車バイオ燃料
47	IP	Induction Pperiodの略(誘導期間)。	ディーゼル車バイオ燃料	
48	IQT装置	IQT(Ignition Quality Tester)装置(定容燃焼容器)による測定でSwRIとAET社により開発。着火遅れ期間から着火性(DCN)を評価する装置で、主に中間留分の着火性が短時間で測定可能。	ディーゼル車バイオ燃料	
49	IR	Infrared spectroscopy(赤外分光法)。測定対象の物質に赤外線を照射し、透過(あるいは反射)光を分光することでスペクトルを得て、対象物の特性を知る方法。	大気企画	
50	ISORROPIA	UAM-AEROに用いられる無機粒子平衡モデルの最新バージョンのひとつ。EPRIのDR.KUMARらが開発。	大気企画	
51	J	JATOP	Japan Auto-Oil Programの略。	全体
52	JC08	新長期規制以降の自動車排出ガス規制で採用されているシャシダイナモ過渡試験用試験モード。都市内走行の平均的走行パターンをもとに、アイドリング、細かな加減速走行を組み合わせたモードになっている。	ガソリン車バイオ燃料 ディーゼル車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料	
53	JCAP	Japan Clean Air Programの略。	全体	
54	JE05	新長期規制以降の自動車排出ガス規制で採用されているエンジンダイナモ過渡試験用試験モード。都市内走行の平均的走行パターンをもとに、アイドリング、細かな加減速走行を組み合わせたモードだが、テスト車両の諸元をもとに、試験車速が得られるようなエンジン回転数・エンジントルクのモードを決め、そのモードに沿ってエンジン単体にて試験を行う。	ディーゼル車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料	
55	JIS	Japanese Industrial Standards(日本工業規格)。工業標準化法に基づき、日本工業標準調査会の答申を受けて、主務大臣が制定する工業標準であり、日本の国家標準の一つ。	ガソリン車バイオ燃料	
56	M	MAC	Mobile Air Conditionerの略(車載エアコン)。	大気企画
57	MEGAN	Model of Emissions of Gases and Aerosols from Natureの略。アメリカの大気研究センター(National Center for Atmospheric Research, NCAR)で開発された植物の排出量推計用ソフトウェア。	大気企画	
58	MON	Motor Octane Nunmerの略。ガソリンのアンチノック性の指標。通常のガソリンエンジンで高速域での特性を示す。基準となるCFRエンジンで900rpmで測定。	ガソリン車バイオ燃料	
59	MOP	meeting of the Partiesの略(議定書の締結国の会合)。	全体	
60	N	NBR	ニトリルゴム。自動車の燃料系統に用いられることがあるゴム。	ディーゼル車バイオ燃料
61	NBR・PVC	ニトリル・ポリ塩化ビニル。自動車の燃料系統に用いられることがあるゴム。	ディーゼル車バイオ燃料	
62	NH4+	(アンモニウムイオン)	大気企画	
63	NIES	National Institute for Environmental Studiesの略(独立行政法人国立環境研究所)。	機関名	

No.		用語	解説	関連WG
64		NMHC	Non-Methane hydrocarbonsの略(非メタン炭化水素)。メタン以外の炭化水素(脂肪族飽和炭化水素、不飽和炭化水素、芳香族炭化水素)の総称、メタンは光化学的に活性が低いいため、光化学オキシダント対策で大気汚染を論じる場合には、このようにメタンを除外した指標が使用される。	ガソリン車バイオ燃料
65		NMVOC	Non-Methane Volatile Organic Compoundsの略(非メタン系揮発性有機化合物)。	大気企画
66		NO	nitric oxide(一酸化窒素)	大気企画
67		NO2	nitrogen dioxide(二酸化窒素)	全体 大気企画
68		NO3	硝酸塩	大気企画
69		NO3-	nitrate(硝酸イオン)	大気企画
70		NOx	一酸化窒素(NO)や二酸化窒素(NO2)など、窒素酸化物の総称。	全体
71		NOx・PM法	自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(1992年制定)。自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の抑制のための大気汚染防止法の特別措置法。	大気企画
72		NSR	NOx Storage Reducation (Catalyst)の略。NOx低減を図るために、NOxを吸蔵しある条件で還元させるシステムを採用した触媒。	ディーゼル車バイオ燃料
73	O	O3	ozone(オゾン)	大気企画
74		OA	Organic Aerosolの略(有機エアロゾル)	大気企画
75		OC	Organic Carbonの略(有機炭素)。炭素成分は、無機炭素と有機炭素に大きく分けられる。有機炭素の由来は様々で、発生源から直接排出される一次生成粒子だけでなく、大気中での反応で生成される二次生成粒子がある。	大気企画
76	P	PA	ポリアミド。自動車の燃料系統に用いられることがある樹脂。	ディーゼル車バイオ燃料
77		PBT	ポリブチレンテレフタレート。自動車の燃料系統に用いられることがある樹脂。	ディーゼル車バイオ燃料
78		PetroOXY試験	FAME混合軽油の酸化安定性試験法。日本の品質確保法における△酸価試験法の代替法として検討中。	ディーゼル車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料
79		PFI	Port Fuel Injectionの略(ポートフューエルインジェクション)。各シリンダー直前の吸気管(ポート)にインジェクターを備え、各気筒ごとに燃料噴射を行うことで精密な混合気コントロールを可能とした、現在主流のインジェクションシステム。	ガソリン車バイオ燃料
80		PM	Particulate Matterの略(粒子状物質)。自動車から排出される粒子に対して用いられることが多い。	ディーゼル車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料
81		PM2.5	粒子直径がおおよそ2.5μm以下の粒子であり、微小粒子と呼ばれる。ただし、米国の環境基準で示されているPM2.5は50%カットオフ径が2.5μmである。SPMより小さく健康影響との関係がより強いと懸念されている。	大気企画
82		PME	Palm oil Methyl Esterの略(パーム油メチルエステル)	ディーゼル車バイオ燃料
83		POM	ポリアセタール。自動車の燃料系統に用いられることがある樹脂。	ディーゼル車バイオ燃料
84		PP	流動点。軽油が固まる温度の目安。	ディーゼル車バイオ燃料
85		PPS	ポリフェニレンサルファイド。自動車の燃料系統に用いられることがある樹脂。	ディーゼル車バイオ燃料
86	R	PRTR	Pollutant Release and Transfer Registerの略(化学物質排出移動量届出制度、環境汚染物質排出移動登録制度)。有害性が疑われるような化学物質が、どこから、どのくらい、環境(大気・水域・土壌など)中へ排出されているか(排出量)、廃棄物などとして移動しているか(移動量)を把握し、集計・公表する仕組み。	大気企画
87		Rancimats試験(ランシマツ)	FAME混合軽油の酸化安定性試験法。主に欧州で用いられている。メローム社が開発した試験機(ランシマツ)を用いることからこの名前と呼ばれる。	ディーゼル車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料
88		RL	Running Lossの略。試験モード走行時に車両から発生する燃料蒸発ガス及びテールパイプ以外から洩れる排出ガス。	ガソリン車バイオ燃料
89		RME	Rapeseed oil Methyl Esterの略(菜種油メチルエステル)。	ディーゼル車バイオ燃料
90		RON	Research Octane Numberの略。ガソリンのアンチノック性の指標である。通常のガソリンエンジンで中低速度域での特性を示す。基準となるCFRエンジンで600rpmで測定。	ガソリン車バイオ燃料
91		RVP	Reid Vapor Pressureの略(リード蒸気圧)。ガソリン蒸気圧の指標である。37.8°C(100F)における燃料蒸気圧。日本国内では、現状、夏季上限値72kPa。2005年より夏季の業界自主対応として65kPa上限となった。	ガソリン車バイオ燃料
92	S	SAPRAC99	米国EPAでMIR(Maximum Incremental Reactivity)の計算に使われているシミュレーションモデル。光化学反応モデルを含むボックスモデルであり、チャンバー実験を数値的に行うもの。	大気企画
93		SHED	Sealed Housing for Evaporative Determinationの略(シエド)。車両蒸発ガス評価を実施するための評価設備。	ガソリン車バイオ燃料
94		SME	Soy oil Methyl Esterの略(大豆油メチルエステル)。	ディーゼル車バイオ燃料
95		SO2	Sulfur Dioxide(二酸化硫黄)。	大気企画

No.		用語	解説	関連WG
96		SO ₄ ²⁻	Sulfate(硫酸塩イオン)。	大気企画
97		SOA	Secondary Organic Aerosolの略(有機二次粒子)。	大気企画
98		SOF	Soluble Organic Fractionの略。PMを構成する物質で、可溶性有機成分。燃料や潤滑油が燃焼過程で生成された分解物や未燃分で、結集または凝固して粒子化したもの。多くは脂肪族炭化水素であるが、極微量ながら発ガン性物質のベンズ(A)ピレンなどの多環芳香物も含む。	ディーゼル車バイオ燃料
99		SOOT	すす、煤煙	ディーゼル車バイオ燃料
100		SPM	Suspended Particulate Mattersの略(浮遊粒子状物質)。日本の環境基準では10μm以下の粒子と定義されている。	全体 大気企画
101		SVC	サクシオンコントロールバルブ。燃料の供給量、圧力を調整するバルブ。	ディーゼル車バイオ燃料
102		SVOC	Semi-volatile Organic Compoundsの略(半揮発性化合物)。	大気企画
103	T	T50、T90	自動車用燃料の蒸留性状を示す指標で、それぞれ蒸留により50%、90%が留出する温度を示す。	ガソリン車バイオ燃料
104		TAN	Total Acid Numberの略(全酸価)。オイルに含まれる酸の量を示す。	ディーゼル車バイオ燃料
105		TBN	Total Base Numberの略(全塩基価)。オイルに含まれる塩基の量を示す。	ディーゼル車バイオ燃料
106		TEOM	Tapered Element Oscillating Microbalanceの略。微粒子をフィルターに捕集しながらその質量変化を実時間で測定できる共振周波数の差の測定による物質の質量測定法。PM2.5大気濃度を1時間分解能で連続に計測する際に使用。	大気企画
107		THC	Total Hydrocarbonの略(総炭化水素)。通常の排ガス測定ではこの値を測定している。但し、この中に含まれるメタン(CH ₄)は新長期規制から日本では規制物質ではなくなるので、規制値としてのHCはメタンを差し引いたNMHC(ノンメタンHC)の値となる。	ガソリン車バイオ燃料
108	V	VOC	Volatile Organic Compoundsの略(揮発性有機化合物)。揮発性を有し、大気中で気体状となる有機化合物の総称であり、トルエン、キシレン、酢酸エチルなど多種多様な物質が含まる。	大気企画
109	W	WME	Waste cooking oil Methyl Estherの略(廃食用油メチルエステル)。	ディーゼル車バイオ燃料
110		WRF	Weather Research and Forecasting (WRF) Modelの略。アメリカの研究機関で開発された気象場を予測するためのソフトウェア。JATOPの開始当初から気象モデルとして利用。	大気企画
111	あ行	アクロレイン	CH ₂ =CHCHOで示されるアルデヒド。自動車からの排出が報告されているPRTR物質の一つ。	ガソリン車バイオ燃料
112		アセトアルデヒド	CH ₃ CHOで示されるアルデヒド。自動車からの排出が報告されているPRTR物質の一つ。	ガソリン車バイオ燃料
113		アロマ	芳香族炭化水素。分子中に芳香族環を有する炭化水素の総称。	ディーゼル車将来燃料
114		イソプレン	分子式 C ₅ H ₈ の、二重結合を2つ持つ炭化水素。室温では揮発性の高い無色の液体。動植物の体内で自然に生成され、人体でも生成される最も一般的な炭化水素である。	大気企画
115		一般局	一般大気環境測定局の略。気汚染防止法第22条に基づいて、環境大気の汚染状況を常時監視(24時間測定)する測定局。	大気企画
116		エポキシ樹脂	自動車の燃料系統に用いられることがある樹脂。	ディーゼル車バイオ燃料
117		エンジンOUT エンジンアウト	エンジン排気後(排気触媒前)の排気。	ディーゼル車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料
118		沿道	自動車排気の影響が大きい道路端。交通量の多い交差点付近には自動車排出ガス測定局が置かれている。	大気企画
119	か行	過酸化価	自動酸化の初期に生じる一次酸化物である過酸化物の量のこと。油の酸化劣化の度合いを表す指標。	ガソリン車バイオ燃料
120		加速酸化試験	B5酸化安定性試験法。	ディーゼル車バイオ燃料
121		過渡 排出係数	Transient Emission Factor。瞬時排出係数、速度×加速度、回転数×トルクマップ上に表現する。	大気企画
122		カルボン酸	カルボキシル基(-COOH)を有する有機酸。R-COOH。アルコールと反応してエステルを生成する	ディーゼル車バイオ燃料
123		気象モデル	Meteorological Model。気流シミュレーションに加え、気温、湿度、混合層高度、等を推計するモデル。	大気企画
124		気流モデル	Air Flow Model。気圧傾度、海陸風、等から3次元の風の流れをシミュレーションするモデル。	大気企画
125		軽二輪車	総排気量が125ccを超え250cc以下の二輪車。	ガソリン車バイオ燃料
126		原付第一種	総排気量が50cc未満の二輪車。	ガソリン車バイオ燃料
127		原付第二種	総排気量が50ccを超え125cc以下の二輪車。	ガソリン車バイオ燃料
128		抗酸化物質	酸化反応を阻害する物質。天然由来のものとしてはアスコルビン酸(ビタミンC)、α-トコフェロール(ビタミンE)などがある。	ディーゼル車バイオ燃料
129		コーカー	重質油熱分解装置。重質留分を軽質留分に分解する装置。FCCやRFCCなどの接触分解法と異なり、触媒を用いることなく、高温下で炭化水素分子を分解する。軽質留分と合わせて「石油コークス」が生成する。	ディーゼル車将来燃料

No.	用語	解説	関連WG
130	コモンレール	ディーゼルエンジンの排ガス低減のひとつである高圧燃料噴射を実現するための要素技術の一つである。エンジンの回転数や負荷にかかわらず、燃料噴射量を自由に制御するために、高圧にした燃料を蓄圧器に貯える。この蓄圧器をコモンレールといい、ECUの制御により、各インジェクターに燃料が分配される。	ディーゼル車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料
131	さ行 サルファ フリー	硫黄分の影響が無視できるほど少ない濃度の意味。ガソリン、軽油ともに硫黄分10ppm以下の燃料を指す。	全体
132	酸価	試料油1g中に含まれる酸性成分を中和するのに要する水酸化カリウムのmg数で表される。酸価には全酸性成分の量を示す全酸価と強酸性成分の量を示す強酸価の二つがあるが、強酸価が存在して問題になる場合は比較的少ないので、単に酸価といって全酸価を指すこともある。	ディーゼル車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料
133	酸化触媒	Oxidizing Catalyst. 自動車の排ガス浄化装置として使われる触媒のうち、酸化炭素(CO)と炭化水素(HC)を酸化して無害化する機能を備えたもの。	大気企画
134	三元触媒	排気ガス中の炭化水素(HC)、一酸化炭素(CO)、窒素酸化物(NOx)の3種類の成分を酸化、還元によって同時に除去・浄化するための貴金属触媒装置。	ディーゼル車将来燃料
135	自排局	自動車排出ガス測定局の略。大気汚染防止法第20条及び第22条に基づいて、自動車排出ガスによる環境大気の汚染状況を常時監視(24時間測定)する測定局。	大気企画
136	触媒OUT 触媒アウト	排気触媒後の排気。	ディーゼル車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料
137	新長期規制	平成17年排出ガス規制(ディーゼル車)は、2005年(平成17年)10月1日から日本国内で販売されるディーゼル自動車を対象に適用される自動車排出ガス規制。	ディーゼル車バイオ燃料 ディーゼル車将来燃料
138	ステロール	動植物に含まれる脂肪族アルコールの総称。	ディーゼル車バイオ燃料
139	ステロール グリコシド	グルコースとステロールが結合した物質。植物に含まれる。	ディーゼル車バイオ燃料
140	スブラッシュ混合	混合する先のガソリンなどの性状を調整せず、エタノールなどを後から単純に混合する方式。性状などが大きく変化するため、品質管理が難しい。	ガソリン車バイオ燃料
141	セスキテルペン	3個のイソプレン単位からなるファルネシル二リン酸(FPP)を共通の前駆体として生合成されるイソプレノイド。鎖状のセスキテルペンの代表例は、スズランの香りを持ち高級香料原料となるファルネソール。	大気企画
142	全塩基価	エンジンオイル中の全塩基価。	ディーゼル車バイオ燃料
143	全酸価	エンジンオイル中の酸価。	ディーゼル車バイオ燃料
144	洗浄ガム分	ガソリンを蒸発させた後に残る残留物を溶剤で洗浄した後に残る量(実在ガム分)。	ガソリン車バイオ燃料
145	た行 ダイレクト噴射	燃料を燃焼室に直接噴射して燃焼させる方式のディーゼルエンジン。	ディーゼル車将来燃料
146	着火遅れ	ディーゼルエンジンにおいて、燃料が噴射されてから着火するまでに若干の時間がかかること。これが大きくなりすぎると爆発的な燃焼を招いて圧力が急上昇し、異常な振動を発生する(ディーゼルロック)原因となる。	ディーゼル車将来燃料
147	デニューダ法	ガス状物質と粒子状物質の分別捕集法の一つ。デニューダは微小粒子状物質(PM2.5)の分析値に影響を及ぼすおそれのあるガス状成分の除去、あるいは、粒子の二次生成の原因となるガス状成分等の濃度を測定するのに用いられる。	大気企画
148	デメリット点数	自動車の運転性試験の指標。運転性が悪さ(デメリット)に応じて高い点がつく指標。	ガソリン車バイオ燃料
149	道路交通センサス	全国道路・街路交通情勢調査。国土交通省が5年ごとに全国の道路交通量を調査し発表するもの。	大気企画
150	トコフェノール	Tocopherol. ビタミンEの事で油脂の抗酸化剤にもなる。	ディーゼル車バイオ燃料
151	トップランナー 基準	自動車の燃費基準や電気・ガス石油機器(家電・OA機器等)の省エネルギー基準を、各々の機器においてエネルギー消費効率が現在商品化されている製品のうち、最も優れている機器の性能以上にするという考え方	全体
152	な行 内燃機関自動車	ガソリンエンジンやディーゼルエンジンなど内燃機関を動力源とする自動車。電気自動車や燃料電池自動車などと対比される。	全体
153	ナノ粒子、 超微小粒子 微小粒子	エアロゾルの粒径による分類。ナノ粒子(Nanoparticle)は50nm以下、超微小粒子(Ultrafine Particle)は100nm以下、微小粒子(Fine Particle)は2.5μm以下とされている。	大気企画
154	ナフテン	分子中に環状構造を持つ飽和炭化水素。シクロパラフィン系炭化水素。	ディーゼル車将来燃料
155	ニート	Neat. 軽油と混合しない100%バイオディーゼル燃料のこと。	ディーゼル車バイオ燃料
156	尿素SCR	尿素(Urea) Selective Catalytic Reductionの略。尿素選択還元型NOx触媒。尿素を排気管に噴射し、排気温度と触媒で還元剤であるアンモニアを生成させ、NOxを浄化する。酸素過剰下でも浄化率70%前後(NOxの還元)を期待できるが、アンモニアの排出が技術的課題。	ディーゼル車バイオ燃料 大気研究

No.	用語	解説	関連WG
157	ネスティング	大気質予測モデルの格子サイズを、着目したい箇所を細密に、周辺部は粗大にして計算をおこなうやり方。細密部と粗大部の計算は独立しておこなうため、計算効率ははかれる。	大気企画
158	ハイエミッター車	機器の耐久劣化や整備不良、違法改造などにより高濃度でNOxや粒子状物質を排出する車	大気企画
159	は行 排出量過渡マップ	Emission Map。過渡排出係数を算出するために、トルク・回転数、速度・加速度マップ上に排出係数を表現したもの。	大気企画
160	非在来型石油	オイルサンド、オイルシェール、天然ガスに随伴するNGL、天然ガスからの合成によるGTLなどをいう。	全体
161	フェノール樹脂	自動車の燃料系統に用いられることがある樹脂。	ディーゼル車バイオ燃料
162	ベンズアルデヒド	C6H5CHOで示されるアルデヒド。自動車からの排出が報告されているPRTR物質の一つ。	ガソリン車バイオ燃料
163	飽和脂肪酸モノグリセライド	FAMEの不純物の一つ。グリセリンの水酸基一つに脂肪酸がエステル結合したもの	ディーゼル車バイオ燃料
164	ポート噴射	ガソリンを吸気ポート内に噴射し空気と混合し、吸気工程にあるピストンが下がる事でシリンダー内に吸い込む方式。ガソリンエンジンの主流の方式。	ガソリン車バイオ燃料
165	ポスト新長期規制	平成22年排出ガス規制あるいは2009年排出ガス規制。日本国内で販売されるガソリン車およびディーゼル車に適用される自動車排出ガス規制。新長期規制の次にあたる規制であり、車種により2009年もしくは2010年までの達成が義務づけられる。	大気企画
166	細街路	市街地内にある幅員4メートル未満の狭い生活道路。	大気企画
167	ホルムアルデヒド	HCHCOで示されるアルデヒド。自動車からの排出が報告されているPRTR物質の一つ (PRTR:Pollutant Release and Transfer Register)。	ガソリン車バイオ燃料
168	ま行 マルチスケール	大気質予測モデル・気象モデルで、東アジアから沿道までの幅広い領域を表現するモデルという意味で使用している。	大気企画
169	未洗浄ガム分	ガソリンを蒸発させた後に残る残留物の量(未洗実在ガム分)。	ガソリン車バイオ燃料
170	モノテルペン	イソプレンを構成単位とする炭化水素で、植物や昆虫、菌類などによって作り出される生体物質である。バラや柑橘類のような芳香を持ち、香水などにも多用される。	大気企画
171	ら行 レーシング	最大回転数までアクセルを踏み込む操作をくりかえすこと。	ディーゼル車将来燃料